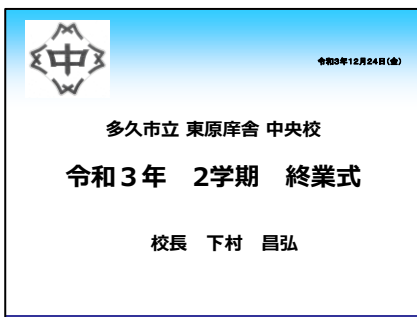


令和3年12月24日（金）
2学期終業式

校長訓話

多久市立東原座舎中央校
校長 下村昌弘

- 全校の皆さん、おはようございます。今朝はどんな気持ちですか。長かった2学期も今日で終わります。まもなく新しい年が来ます。



- 玄関前には、新年に、新しい神様に迷わず来ていただけるよう、PTAの方々と門松をつくって飾りました。皆さん気付いていましたか。

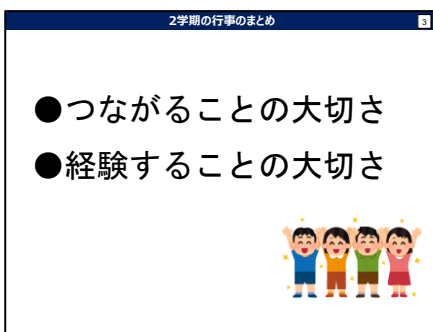


- しかし今日は、新年を迎える前に、皆さんと一緒に今年のまとめをしたいと思いません。よく話を聞いてください。
- では、まず、ちょっと2学期を振り返ってみましょう。皆さんの頭の中には、どんなことが思い出されますか。楽しかったこと、うれしかったこと。何が一番記憶に残っていますか。
- 特に2学期。学校ではいろいろな行事がありました。



○ 大きな行事としては、体育大会。夏休み明けの9月は、新型コロナウイルス感染症の第5波のさなかでしたので、全校が一堂に会することはできませんでしたが、リモート配信を活用した、新しい形、新しい方法での体育大会を開催することができました。

- それから、修学旅行・バス旅行。9年生にとっては、宿泊こそありませんでしたが、大分・福岡・有田・唐津への2日間にわたる旅行ができました。6年生は長崎修学旅行、そして、その他のそれぞれの学年のバス旅行。こうした旅行的行事では、しばし日常を離れ、友だちとの楽しい思い出がたくさんできたのではないのでしょうか。
- 他にも、文化発表会や福祉体験、スケッチ大会に縦割り班活動など、たくさんの行事がありました。



○ このように、2学期のできごとを振り返ってみると、勉強はもちろんですが、実際に行ってみる、やってみるという活動がたくさんあったと思います。その中で、みなさんは「つながることの大切さ」「経験することの大切さ」を学んでくれたと思います。

- そこで今度は「経験」ということについて、少し考えを深めてみたいと思います。
- 皆さんは宮沢賢治が書いた「雨ニモ負ケズ」という詩を知っていますか。5年生の道徳の教科書に出てきますよね。
- ちょっと読んでみますので、皆さんも小さな声で口に出してみてください。画面の文字は、カタカナですから、少し読みにくいかもしれませんが、ゆっくり読んでみます。

○ では、本文を読みます。

雨にも負けず
風にも負けず
雪にも夏の暑さにも負けぬ
丈夫な体をもち
慾（よく）はなく
決して怒（いか）らず
いつも静かに笑っている
一日に玄米四合と
味噌と 少しの野菜を食べ
あらゆることを
自分を 勘定に入れずに
よく 見聞きし わかり
そして 忘れず
野原の松の 林の陰の
小さな萱（かや）ぶきの 小屋にいて
東に 病気の子供あれば
行って 看病してやり
西に 疲れた母あれば
行って その稲の束（たば）を 負い
南に 死にそうな人あれば
行って 怖がらなくてもいいと言い
北に 喧嘩や訴訟（そしょう）があれば
つまらないから やめろと言い
日照りの時は 涙を流し
寒さの夏は おろおろ歩き
みんなに でくのぼー と呼ばれ
褒められもせず
苦にもされず
そういうものに
わたしはなりたい



○ いかがでしたか。私はこれが大好きで、折に触れて声に出して読んでみるのですが、何回読んでみても、難しい詩だと思っています。だから今でも、音読しては考え込んだり、余韻に浸ってみたりします。

○ 実は意外に知られていませんが、この「雨ニモマケズ」は、宮沢賢治の死後に発表された“遺作”です。そう思うと、なおさら感慨深いものがあります。

- おそらく解釈の仕方はいろいろあると思うのですが、この詩に書かれていることそのものを実行すべきだということではなくて、ここから読み取れることを一つの「理想」とし、また「志」として生きるということが大切なのではないかと考えています。
- みなさんも繰り返し声に出して読んでみて、ここに書かれている生き方を想像してみてください。
- さらに、話を進めます。「雨ニモ負ケズ」に関連して、この人は知っていますか。



- 左上の人は、谷川徹三という哲学者です。ちなみに谷川徹三の息子が谷川俊太郎。下の人です。スイミーを翻訳した人ですから、こちらは知っている人も多いでしょう。

○ 話は戻りますが、谷川徹三は、もうずいぶん前にお亡くなりになりましたが、この人によって、「雨ニモ負ケズ」の詩は、戦時中、「修身」（今でいう「道徳」）の副読本に取り上げられました。そして、戦後は「国定教科書」に載り、日本人の多くが知る詩となりました。今では、国語や道徳の教科書に載っていて、いわば、国民的な詩だと言えます。

- 谷川徹三は、この詩について、ある講演会で次のように言っています。
- 「この詩を私は、明治以後の日本人の作ったあらゆる詩の中で、最高の詩であると思っています。もっと美しい詩、あるいは、もっともっと深い詩というものはあるかもしれない。
しかし、その精神の高さにおいて、これに比べうる詩を私は知らないのであります。この詩が今日の時代のもつほとんどはかり知りうることのできぬ大きな意味——これは結局、宮沢賢治という詩人が、今日の時代にもっている意味であります」
- そして続けて次のように語るのです。

谷川徹三のこたば

学問は満足しようとしな
い。しかし、経験は満足しようとする。
これが経験の危険である。

○ 「学問は満足しようとしな
い。しかし、経験は満足しようとする。
これが経験の危険である」

○ 今日は、2学期の締めくくりとして、全校の皆さんと一緒にこの言葉の意味を考えて終わりにしたいと思います。

す。

○ 2学期はたくさんの経験、体験を積み重ねました。皆さんの頭の中にはそれらの記憶があざやかに残っていることでしょう。

○ 経験は強烈な印象を持っていて、人はそこから深い教訓を得ることができます。しかし、一人の人間が短い一生の中で持つ経験はあまりに少ないのです。ですから、経験による学びは、すごく記憶に残るものではありませんが、経験には限界もあるし、その他を知らないという点で危険でもあるのです。

○ 一方、学問は、昔の人たちの経験したことの積み重ねによる叡智（すぐれた知恵）が結集されたものですから、一つを学べば、いろんなことに応用できます。しかし、学問には終わりがありません。これで満足という終わりはないのです。

○ つまり、経験も大事。学問も大事。でも、どちらか一方だけでは危険なのです。学問と経験のほどよいバランスが大事なのです。いいですか、みなさん。経験と学問のどちらにもバランスよく取り組みながら、自分を高めていきましょう。

○ 2学期はどちらかというと経験が多かったと思います。今度は、しっかり学問・勉強に取り組みましょう。

冬は力を蓄える季節
来たるべき春に向けて
虎視眈々と
己を鍛えよ



○ 冬休み、3学期は寒い季節です。外でいろいろな経験を積むというよりも、どちらかというと、机について、あれこれと考えたり、勉強に集中したりする季節です。間もなく新しい年も来ますから、今年の反省をして、来年の目標を立て、しっかり学問・勉強に取り組んでください。

- 来年は寅年です。寅年にちなんで、虎が獲物をねらってそこから目をそらさないように「虎視眈々」と目標に向かって自分を鍛えてください。



- そして一つの事故もなく、怪我もなく、新しい気持ちで1月11日に会いましょう。みんな元気で！

- これで私の話を終わります。